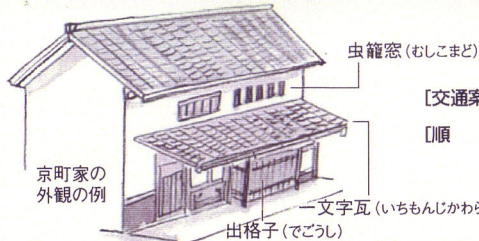


旧東海道へタイムトラベル

飛脚が行き交った東海道(旧三条通)。今は、主役の座を三条通に譲っていますが、江戸時代には近代日本の礎をつくった偉人、賢人も行き来した歴史の舞台です。難所だったことを物語る車石や、今も残る古刹(こさつ)、伝統的な町家を見ながら時間旅行を楽しみましょう。

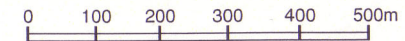


[交通案内]

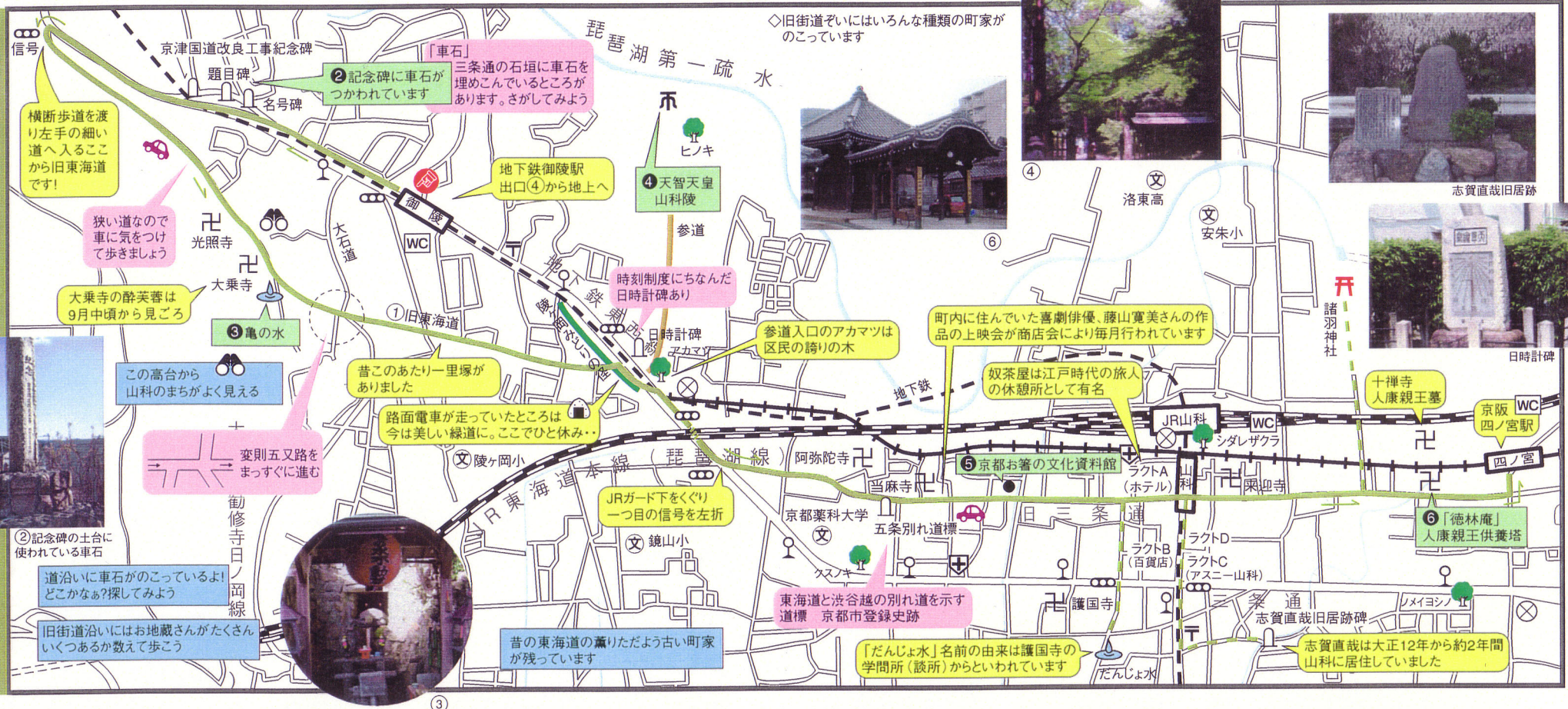
地下鉄東西線御陵駅下車・出口④

[順路]

距離 約4km
 地下鉄御陵駅 ⇒ 名号碑・題目碑など ⇒ 亀の水 ⇒ 天智天皇山科陵 ⇒ 8分
 5条別れ道標 ⇒ 京都お箸の文化資料館 ⇒ 徳林庵 ⇒ 京阪四ノ宮駅
 4分 10分 4分



B
コース



1 「東海道と山科」
 東海道は現在の旧三条通の位置を通過していました。江戸日本橋と京都を結び、人や物資の移動、飛脚の往来など、政治、経済、通信など、国の大動脈でした。街道には一里(4km)ごとに目印として一里塚が築かれていました。

2 「車石(くるまいし)」
 東海道の京都から大津までは、人馬が通る道と荷物を積んだ牛車(ぎゅうしゃ)が通る車道とを分けていました。牛車が通る道には車石という車輪の幅に合わせて溝を掘った石を敷き詰め、レールのようにして通行していました。

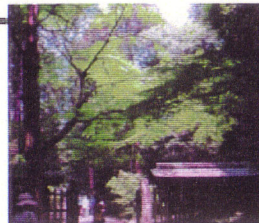
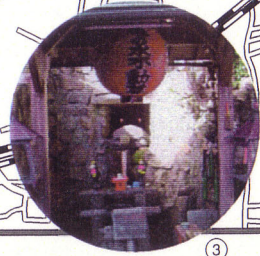
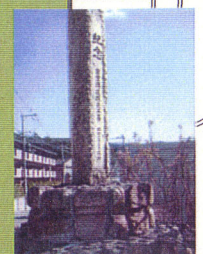
3 「亀の水」
 江戸時代の僧木食正禅養阿(もくじしょうぜんようあ)上人(1687~1763)は、通行の難所であった日ノ岡峠の改修を行いました。旅人や牛馬が休憩できるように井戸を掘り、亀の口から水を落とした水飲み場と湯茶の接待所をつくりました。

4 「天智天皇(てんじてんのう)山科陵」
 中臣鎌足(なかとみのかまたり)とともに蘇我氏を滅ぼし、大化の改新(645年)を行った天智天皇(中大兄皇子・なかのおおえのおおじ)の御陵(ごりょう)です。参道の中に進むと都会の喧騒を忘れるほど静かで緑豊かな空間が広がっています。

5 「京都お箸の文化資料館」
 日本各地の箸をはじめ、中国、ベトナムなど世界中のお箸が展示されているユニークな資料館。長さ2mもあるジャンボ箸は必見です。食文化に詳しい館長の楽しいお話を聞けるかもしれません。予約をすれば無料で箸づくりを体験できます。

6 「徳林庵(とくりんあん)」
 京都六地藏巡りのひとつで、山科地藏として知られる寺院。琵琶の祖として信仰される人康親王の菩提を弔うために創建されたと伝えられています。江戸時代に東海道を往来した飛脚は、この境内で休憩しました。地藏盆は8月22・23日に行われます。

5



6